

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
- 2 事例報告学校名：日高町立門別小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 江口 秀和
- 4 キーワード：地域・関係機関との連携・協働による教育活動の推進

1 「ふるさと学習」の構築・実践に関わって

総合的な学習の時間において各学年35時間を「ふるさと学習」の時間として充てている。

- 年度始めから年度末にかけて実践することとし、地域住民や関係機関職員の意向や専門的知識を十分に生かせる指導計画となるよう、前年度より地域住民と話し合いを重ね指導計画を立案した。
- 次の点を考慮し、今年度実施した実践内容を以降の年度も実施する。
 - ・次年度の学年児童が活動を進める上で、今年度の学年児童の学びの結果を見通しとしてもつことができ、よりよい活動を見出して活動を創り出すことができる。
 - ・継続的な取組により、地域住民や関係機関の職員にとっても次年度以降の指導等内容が明らかになっていることから指導等意識も高まり、年度を重ねるごとに指導・支援力が高まる。
 - ・毎年度活動を立案する必要性がなくなる点や地域住民等の主体的な指導実践の実現の点から、教職員の業務負担も大幅に減少する。

2 地域から学び、地域に貢献する、地域の魅力やよさを発信する「ふるさと学習」

【目標】

- 地域探索や地域人材からの学びを通じて、「地域を学ぶよさ」「地域から学ぶ喜び」を味わう経験などを積み重ね、地域を愛する心を育む。
- 有識者からの学びを通じて、地域を深くとらえるとともに、望ましい地域や生活しやすい地域の姿を問い続け、自分たちが取り組むべき活動や働きかけを見出し具現化する力を身に付けさせる。

3 具体的な学習

(1) 交通安全・事故防止【3年生】

本校児童と地域住民の事故防止を願い取り組んだ活動である。タブレットを活用した現場探索結果とパトロールボランティアからのアドバイスをもとに、交通安全マップを作成した。探索は2回実施し、1回目は危険箇所や想定される事故を児童だけで見い出す。2回目は、パトロールボランティアと各箇所を再度探索し、自分たちで見い出した危険箇所などをパトロールボランティアに提示。専門的な立場から想定される事故などについて追加や詳細な説明をもらい、事故などへの理解を深めることができた。作成したマップをもとに、本校児童と保護者を対象とした発表会を実施した。

【人材活用】

パトロールボランティア・日高町役場



(2) 地域特産物の発信【4年生】

地域の特産物として「米（ななつぼし）」「軟白長葱」「グリーンアスパラ」がある。今年度は、グリーンアスパラの魅力を全国に情報発信する。JA門別と連携し、グリーンアスパラの栽培方法や成長の様子を観察し、収穫作業などを体験した。本来であれば、グリーンアスパラの様々な調理内容を全国に発信する予定であったが、調理予定日が新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言期間と重なったために調理活動に至らなかった。これにより、JA門別と協議を重ね、軟白長葱の調理を行うこととなった。観察結果と調理内容を児童がまとめ、ホームページを通じて特産物の魅力を全国に発信する。

【人材活用】

JA門別・軟白白長葱部会



(3) 防災教育【5年生】

海岸までの距離も近く津波災害・水害災害が想定される地域である。このことを踏まえ、地域住民の命と安全を守るために自分たちでできる取組と活動を考え実践した。

①DIG（災害机上訓練及び実際の現場探索）

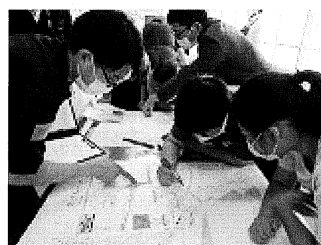
消防機関が中心となり行った取組である。住民に勧める避難場所や避難経路をマップにまとめ、住民に発表した。

②地域住民支援体験

振興局と役場機関との連携による活動である。水害災害による避難を想定し、体育館に避難した住民への支援内容を事前に計画し実際に実践した。

【人材活用】

日高振興局・日高町役場・日高西部消防組合ほか



(4) 地域情報の発信【6年生】

日高町立日高小学校との連携による活動である。自然豊かな日高地区における「実際に自然体験活動で体感した魅力やよさ」「訪問した各施設の紹介や魅力」を全国に向けて発信する活動である。児童がパソコンで作成したまとめの内容を本校のホームページに掲載するとともに、次年度以降は役場のホームページとリンクさせて幅広い情報発信を行うことを予定している。

自然体験活動実施にあたっては、ラフティングや釣り堀施設をはじめとする4か所の自然体験施設、施設探索にあたっては6か所の施設の協力のもと実施に至った。

【人材活用】

日高町役場・日高地区自然体験施設・日高地区施設

